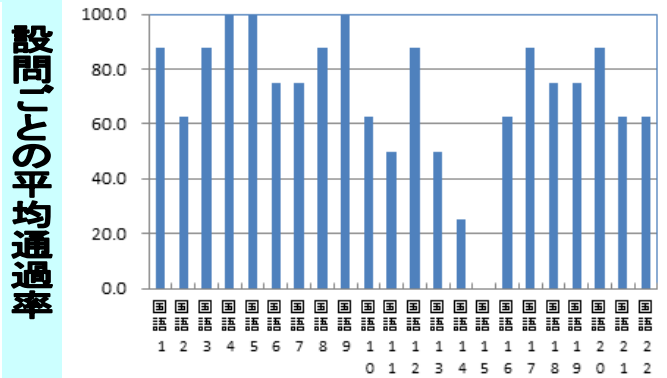
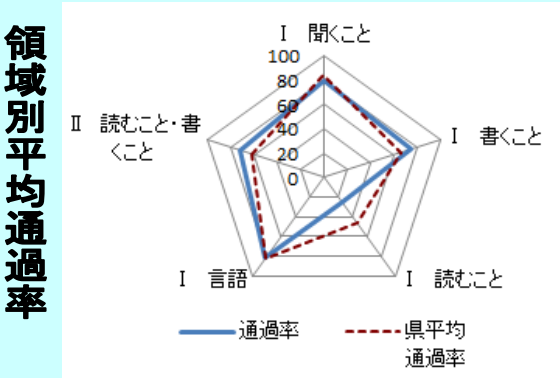


# 指導方法等の改善計画について〔国語科〕

三原市立 船木小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 71.0%, 県 71.8%）



本年度の結果について

○国語の結果において、タイプ1は65.3%、タイプ2は71.9%の通過率となっている。特に、ローマ字の読み書きを除く伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域では、平均通過率が89.3%と高い。聞くこと、書くことの領域でも、通過率が62.5%～87.5%となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、一方では、読むことの領域で、平均通過率が25%と低く、中心となる語や文の把握の設問では通過率は0%である。○昨年度は、書くことの領域で、三段落構成で書こうとしているが、具体例を挙げて自分の意見を書くことができていないという課題が見られた。そこで、授業の中で、自分の意見や考えを書く場を意図的に設定し、自分の経験・生活をふり返って、具体的な事例を挙げながら意見を書かせるような指導を行った。

**重点課題**

【課題1】  
「読むこと」の領域で、要旨に合う適切な言葉を文章中から選び置き換える問題で、中心となる語や文の把握ができていない。似たような言葉を選んだり、内容と関係なく指定された文字数に合う言葉を探したりしている。(通過率0%)

【課題2】  
「読むこと」の領域で、段落の内容を読み取り前後の関係を考えて文章を当てはめる問題で、事例の1つであることから、それらが書かれている段落の近くを選ぶことはできているが、段落の内容や接続語の関係から順序をとらえることができていない。(通過率25%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）**

【課題1】  
中心となる語や文をつかむ力をつけるために、説明文の単元で中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりするなどして内容を整理する活動を行う。また、整理した内容を、決められた分量にまとめて書く活動を取り入れる。

【課題2】  
説明文の単元で、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませ、指示語や接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解させる。また、事実と意見との記述の違いに気づかせ、その関係を捉えさせる。「書くこと」の領域とリンクさせ、事実と意見、具体例等、段落相互の関係に注意して文章を構成し書く活動を行う。学びタイムで、指示語や接続語、文章の構成等の問題に取り組ませ、不十分なところは個別指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 「基礎・基本」 診断的小テスト			全学年 期末テスト	全学年 標準学力調査の実施・分析	4年生 H26「基礎・基本」 5年生 H26「全国学力」	全学年 期末テスト
目標値	平均通過率 80%			75点以上が65%以上	全国平均以上が70%以上	平均通過率 70%	75点以上が70%以上
実施後数値							

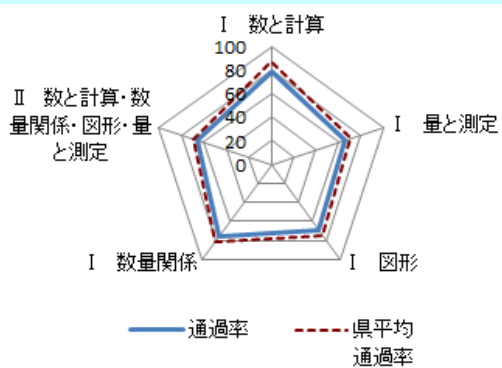
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 「基礎・基本」 診断的小テスト			全学年 期末テスト	全学年 標準学力調査の実施・分析	4年生 H26「基礎・基本」 5年生 H26「全国学力」	全学年 期末テスト
目標値	平均通過率 80%			75点以上が65%以上	全国平均以上が70%以上	平均通過率 70%	75点以上が70%以上
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔算数科〕

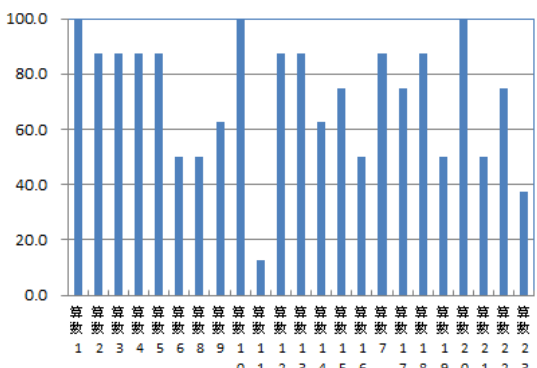
三原市立 船木小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 71.7%, 県 78.0%）

領域別平均通過率



設定した目標通過率



本年度の結果について

- 算数の結果において、タイプⅠは 73%, タイプⅡは 65.63%の通過率となっている。特に、分数以外の数と計算・重さの読み取り・角の測定・直方体の辺に垂直な面・四則混合の計算・解決方法の解釈と適用などについては、平均通過率が 87.5%以上となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、一方では、分数・複合図形の面積・円の中心と半径などについては、平均通過率が 50%以下となっている。
- 昨年度は、図形と単位量当たりの分野で課題が見られた。そこで、図形や単位量当たりの学習をする際に、算数的活動、操作によって構成要素や特性を体感させ、その体験をもとに、定義などをまとめていく活動を行い、基礎的・基本的な内容を身に付けさせた。日頃から、授業の中で自分の考えを書く場、説明し合う場を設定し、式や数、言葉を使って説明する力を育てた。また、学びタイムでフォローアップ問題に取り組み、放課後の個別指導によって理解の不十分なところの定着を図った。

重点課題

【課題 1】

タイプⅠの複合図形の面積を正しく出すことができていない。全体の面積を求める式を記述していたり、ずれている図形の縦の長さを勘違いして公式に入っていたりしている。(通過率 12.5%)

【課題 2】

図形・量と測定の問題で、長方形の板に、カードをすきまなくしきつめることができない理由を、言葉や式で説明することができていない。(通過率 37.5%)  
次の①②③の条件すべてを書いていた場合正解。①長方形の板の面積が 4 5 cm<sup>2</sup>であることと、カードの面積が 2 cm<sup>2</sup>であること ②長方形の板の面積をカードの面積でわること ③ ②の結果がわり切れないこと  
②③だけ書いている (12.5%) ①を書いている (12.5%) ①②③以外の解答 (37.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題 1】

複合図形の面積については、どこが縦でどこが横にあたるのか、思考を助け、間違いを防ぐことができるように、図に数字や補助線を書き込ませる。また、いろいろなタイプの複合図形の面積を求める学習活動を行って、慣れさせていく。復習の間があくと、求め方を忘れてしまうので、定期的に復習を行っていくようにする。

【課題 2】

今回は、しきつめの条件をすべて挙げるということに課題があることがわかったので、自分が発見した理由以外にも条件がないか、確かめる力を育てる必要がある。日頃から、授業の中で自分の考えを書く場、説明し合う場を設定し、式や数、言葉を使って説明する力を育てる。また、学びタイムでフォローアップ問題に取り組み、放課後の個別指導によって理解の不十分なところの定着を図る。

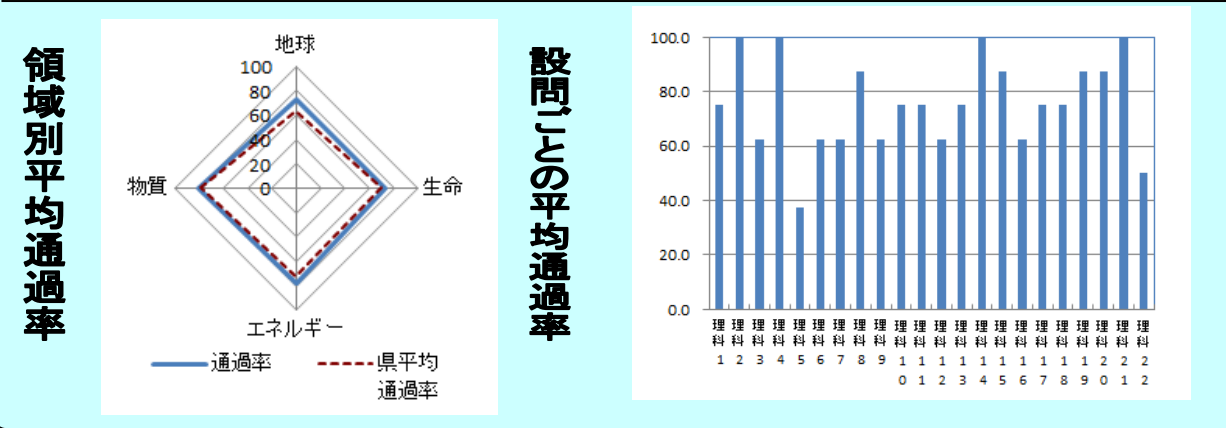
【課題 1】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法	5 年生 「基礎・基本」 診断的小テスト			全学年 期末テスト	全学年 標準学力調査の実施・分析	4 年生 H26 「基礎・基本」 5 年生 H26 「全国学力」	全学年 期末テスト
目標値	平均通過率 8 0 %			75 点以上が 65%以上	全国平均以上が 70%以上	平均通過率 7 0 %	75 点以上が 70%以上
実施後数値							

【課題 2】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法	5 年生 「基礎・基本」 診断的小テスト			全学年 期末テスト	全学年 標準学力調査の実施・分析	4 年生 H26 「基礎・基本」 5 年生 H26 「全国学力」	全学年 期末テスト
目標値	平均通過率 8 0 %			75 点以上が 65%以上	全国平均以上が 70%以上	平均通過率 7 0 %	75 点以上が 70%以上
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔理科〕

三原市立 船木小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 75.6%, 県 70.6%)



本年度の結果について

○理科の結果において、タイプⅠは73.7%，タイプⅡは73.5%の通過率となっている。特に、月の動き方、しゃ光板を使う理由、関節の名称、磁石の性質、磁石の資質を利用したものづくり、形によるものの重さ、金属の温まり方、金属の温度変化と体積の変化について、87.5～100%と通過率が高い。他の設問についても、62.5～75%の通過率であり、基礎的・基本的な内容については定着していると考えられる。また、タイプⅡの問題についても、75～100%と通過率が高いものが多い。しかし、方位磁針の正しい使い方、金属の温度変化と生活との関連については50%以下であった。○昨年度は、回路における乾電池の直列つなぎと並列つなぎの違いを車の走る速さと関係付けて考えることに課題が見られた。そこで、実験やおもちゃ作り、観察や調べ学習などを通して気づいたこと、わかったことをキーワードを使ってまとめていく授業づくりを進めていった。また、学びタイムでフォローアップ問題に取り組み、放課後の個別指導によって理解の不十分なところの定着を図った。

重点課題

【課題1】  
タイプⅠ，地球領域の「方位磁針の正しい使い方」を正しく答えることに課題がある。記号（エ）を選び、北西と答えた児童12.5%，南と答えた25%，針が南北を指していない記号（ア）を選んだ児童25%であった。（通過率37.5%）

【課題2】  
タイプⅡ，物質領域の「金属の温度変化と生活との関連」，鉄道のレールのすきまが冬よりも夏の方が狭くなった理由を説明することに課題がある。「レールが金属である」，「夏は気温が高い」，「レールがあたためられる」，「体積が大きくなる」という4つの条件をつなげて説明することができていない。（通過率50%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】  
方位磁針を使う際に、赤い針が北を指すように向けて置くことを徹底させ、そのうえで調べたいものがどの方位にあるかをよみとらせる活動を一人一人に体験させる。グループで実験をする際には、実験用具・器具の使い方を全員が習得できるように学習の進め方を工夫していく。また、学習したことを忘れないように、学びタイムでフォローアップ問題に取り組み、復習を行っていく。

【課題2】  
授業の中で、2つの事象や、条件を関係付けて説明する学習場面を取り入れるようにする。関係付けることが苦手の児童には、書いたり話したりするときに、話型や関係を示した図などを提示するようする。また、学びタイムで、2つの事象や、条件を関係付けて説明をする問題練習にも取り組んでいく。

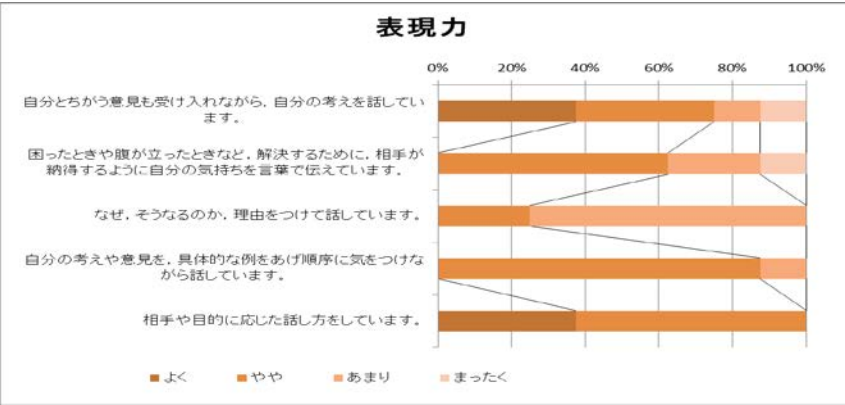
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生「基礎・基本」 診断的小テスト			全学年 期末テスト	全学年 標準学力調査の実施・分析	4年生 H26「基礎・基本」	3～6年生 期末テスト
目標値	平均通過率 80%			75点以上が65%以上	全国平均以上が70%以上	平均通過率 70%	75点以上が70%以上
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生「基礎・基本」 診断的小テスト			全学年 期末テスト	全学年 標準学力調査の実施・分析	4年生 H26「基礎・基本」	3～6年生 期末テスト
目標値	平均通過率 80%			75点以上が65%以上	全国平均以上が70%以上	平均通過率 70%	75点以上が70%以上
実施後数値							



質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習



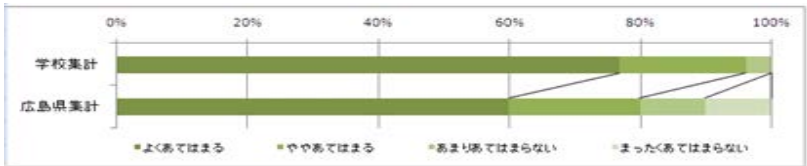
児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
なぜ、そうなるのか、理由をつけて話しています。（25%）	・理由付けをして話す習慣づけを徹底する。（授業および生活場面） 授業だけでなく、生活場面においても、必ず理由をつけて話すように促し、そうすることによって相手に伝えたいことがよく伝わることを実感させていく。	5	50%	児童アンケート実施	12月		※現状値からの伸びが見られない項目については、再度、取組内容について検討する必要がある。

(2) 教科

国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、観察や実験の結果をノートやグラフ、表に記録したり記述したりする方法について学習しています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしている。（50%）	・型（三角ロジック）の指導の継続 ・授業や日記指導で、段落の数や書くべき内容の条件を与えて文章を書かせることを通して、自分の伝えたいことを伝えるための話の組み立て方を指導する。	5	75%	児童アンケート実施	12月		
算数	算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明している。（37.5%）	・型（三角ロジック）の指導の継続 ・自分の考えを書く時間を保障し、実物投影機やホワイトボードを使って、ペアや全体で自分の考えを理由をつけて説明し合わせる。	5	50%	児童アンケート実施	12月		
理科	理科の授業では、観察や実験の結果をノートやグラフ、表に記録したり記述したりする方法について学習している。（75%）	・理科授業における問題解決の流れについて全体で研修する。 ・観察や実験の結果を考察しやすくするために、グラフ、表を用いて記録したり、ノートに記述したりする方法を指導していく。	5	75%	児童アンケート実施	12月		

「基礎・基本」定着状況調査の調査結果入力ファイルで作成されるグラフを適宜活用する。

特に課題があると考えられる内容を1点に絞る。（現状値を記入する。）

左欄の記述を受け、今後、教科の授業方法や授業内容を、どのように指導改善するかについて、内容を具体的に記述する。  
重点的に取り組むことに絞って記述する。

＜目標値＞  
現状値に対する目標値を設定する。  
＜検証方法＞  
児童アンケート調査など、目標値が見取れる検証方法を設定する。

※現状値からの伸びが見られない項目については、再度、取組内容について検討する必要がある。